

学燈 Gakutou

【第22号】



山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻（教職大学院）は、学校現場の諸課題に関して理論的・実践的に高度な専門能力をもち、学校現場における指導的役割を担い得る人材を養成することを目的とした大学院です。平成28年度に開設され、学校経営コース、教育実践開発コースでスタートをし、平成31年度に特別支援教育コースが加わり、3コースとなりました。現在、学校経営コース15名、教育実践開発コース19名、特別支援教育コース3名の計37名が学んでいます。そのうち17名が現職教員です。

ストレートマスターに「大学院での一番の学びは何？」と質問すると、大学で理論的なことを学び、それを実習で生かすことが一番の学びだと自信をもって答えます。理論と実践の往還を通した学びは、即戦力としての授業実践力やこれからの教員に求められる資質・能力や問題解決に向けた確かな力を培っています。現職教員は、学校マネジメント力や諸課題に対応し、方策を提案できる力、学校支援力などを培っています。大学院生活でしか体験できない、ストレートマスターとの合同授業や自主勉強会、現職教員同士の話し合いなど多岐にわたり、人とのつながりが学びを深めています。

経験も年齢も違う人たちとかけがいのない時間を共有し、共に学び合いながら課題に対応していく素地を作り、経験豊富な教授陣の指導・支援を受けながら学び続ける場所、それが教職大学院です。



山口大学大学院教育学研究科

教職実践高度化専攻 学校経営コース 門出 知

学部や部活の仲間たちとの最高の思い出を残して約30年前に一度卒業したキャンパスに、再び戻って学び直す日が来ようとは思っていませんでした。本専攻における管理職院生第一号としての期待を背中に感じつつ、今年4月に入学しました。最初の1か月は学生生活に慣れることや課題提出に精一杯の毎日でしたが、現在は「大学と現場を行き来できる環境に身を置くことができるのだから、実践を意識した学びを心がけねば」と、決意を新たに励んでいます。

一の坂川沿いの遊歩道に「とふほたるをもちのみこそしるへみやみ草かくれに よるはもゆらむ」という大内盛見の句碑があります。草の陰に隠れて内向きな学びばかりを続けていると、何も得ないまま、あっという間に2年は終わってしまいます。迷いながら、道を求めながら、虫に負けじと人から人へ、想いをもって飛び回る覚悟です。

ある時ストレートマスターから「教師になってからどんな夢をもちましたか」と尋ねられ、思わず考え込んでしまいました。現職教員である私は、合同授業や座談会において、教職をめざしている学部生から自身の学びを見つめ直す機会をもらっています。行き詰ったときには、幅広い専門領域をもち教育現場にも精通した先生方が、自分の立ち位置に気づかせてくださいます。同期院生たちのチームワークも最高です。支えてくださる多くの方への感謝の気持ちを忘れず、自身の学びをしっかりと還元できるよう、日々努めていきます。

3 コース合同研修より

① 自己紹介と全員研究会

4月に、新入生対象のオリエンテーションを3日間行いました。オリエンテーションは、「教員主体の内容」と「院生企画の内容」によって構成され、全体運営は院生が行いました。

中心となった岡本大介院生（現職）と村瀬陽大院生（ストレートマスター）に中原基一郎院生（現職）がインタビューをしました。

中原：オリエンテーション全体の企画・運営を行う際に、何を意識していましたか。

岡本：院生は、所属コースが3つ（学校経営、教育実践開発、特別支援教育）に分かれていたり、現職院生又はストマス院生であったりします。所属コースや立場を尊重しながら、全員の意見やアイデアを引き出すために、会議を複数回設定するなどの工夫を行いました。

村瀬：担当院生で協力しながら企画を進めました。オリエンテーション全体の企画へ関わりながら、ストマス院生の良さを生かしていきたいと考えていました。「プレゼン資料作成」や「音響機器」など、一人ひとりの長所を考慮した役割分担は、特に工夫したところでした。

岡本：ストマス院生の主体的な姿勢に、大学院で過ごした1年間の成長を感じました。よりよい内容にしていこうと繰り返し話し合いを行うなど、責任感をもって主体的に取り組む姿が印象的でした。

村瀬：ストマス院生同士で話し合いを繰り返しながら、内容を何度も練り直しました。特に、「人間関係づくりプログラム」においては、「全員が参加しやすいこと」や「グループ内での会話が盛り上がることを重視し、協議を重ねました。



中原：オリエンテーションの企画・運営を通して、どのような学びがありましたか。

村瀬：昨年度のオリエンテーションの良さや課題をもとに今年度の内容を考えるなど、批判的に思考する機会となりました。この「批判的に思考する」という視点をもって学校実習に臨むことで、よりよい学びが得られています。

岡本：一言で言うと、「リーダーとして組織を動かす」実践的な機会となりました。オリエンテーション全体のねらいを共有しつつ、企画一つひとつの内容や運営を役割分担することなど、貴重な機会となりました。原籍校を中心に進めている実践研究においても、「組織を動かす」ことを意識して取り組んでいます。

新入生の気づきや感想から

全員研究会で一番感じたことは、現職の先生方と私たちの視座の高さの違いでした。「生徒指導」というテーマの中で、私たちストレートマスターは学級経営を思い描いていましたが、現職院生の方々は学校全体を見渡した意見を述べておられました。経験の違いで出てくる意見がここまで違うことに驚きました。ただ、現職院生も私たちの意見から学びを感じてくださっていました。ファシリテーターの導きもあり、話し合いがとても盛り上がり、実りの多い研修となりました。緊張した中でのオリエンテーションでしたが、合同研修をする中で先輩方の凄さや意見を出し合う良さを実感することができました。私のこれからの学びの出発点として忘れられない時間となりました。



(教育実践開発コース1年 渡辺 翔太)

全員研究会で、現職院生とストレートマスターを交えた全てのコースが小グループになり、「学級・学校経営する上でのルールづくり」について協議を行いました。入学後、初めてのディスカッションで緊張していましたが、M2の方々がイニシアティブをとり、和やかな雰囲気を作っていたおかげで、テーマに沿って話が盛り上がりました。

校種や年齢、経験も違う様々なメンバーが集まって協議することにより、新しいアイデアや、自分にはない視点に気付くことができました。固定観念にとらわれることなく、学びを深める良さを実感することができ、今後の大学院での日々に繋がる経験をすることができました。

(特別支援教育コース1年 山本 麻衣)

3 コース合同研修より

②クイズ大会やスポーツフェスティバル

Q：クイズ大会を開催した意図や目的を教えてください。

A：「クイズ大会なら、みんなが考える中で対話が生まれるのではないか。」協働的な学びを通して交流を図ることができ、楽しんでもらえる企画を考えました。また、チーム対抗戦にすることで教職大学院がM1やM2に関わらず、協働・連携していく組織であるという印象をもていただければと思いました。

(教育実践開発コース2年 徳原 淳)

Q：ストマス院生のスポーツフェスティバルを企画したのはなぜですか？

A：「楽しかった」というプラスの印象が残るオリエンテーションにしたいと企画しました。脳と体をしっかり使っての交流、スポーツを通して見える人間性は、今後の協働活動にも生きてくるはずです。コロナも徐々に落ち着いてきている中、M1とM2が共に汗を流しながら、互いに本音でぶつかり合うことができました。

(教育実践開発コース2年 村田 蒼也)

新入生の感想から



バレーボール大会では、ミスしても互いにドンマイと言葉かけを行うなど、良い雰囲気の中で本当に楽しかったです。僕はバレーボール経験者で、未経験者が取りやすいようなトスやレシーブを心がけましたが、配慮が必要ないくらい皆さん上手で、本当にびっくりしました。今回の活動を通して学年間の心理的距離が縮まり、互いに話しやすくなったと思います。また、自分が教員となった際にその学校の先輩の先生方と、どのようにコミュニケーションをとればよいのか少しわかったように感じました。

(教育実践開発コース1年 池上 航太)

クイズ大会では、ユニークな問題を解いていく中で、様々なコースの方々と一緒に、答えを予測することを楽しみながら協力できました。初めて会う方々と話すのはさすがに緊張しましたが、学校経営コースの先生方やM2の先輩方が気さくに話しかけてくださり、会話が弾みました。来年度もコースの垣根を越えて、様々な方々が笑顔で仲を深めることができるオリエンテーションにしたいと考えています。

(教育実践開発コース1年 福本 翔太)

ペアリング活動

ペアリングとは、院生の「現職の方に授業や生徒指導の悩みを聞いて欲しい！これまでの経験などを教えて欲しい！」「ストレートマスターの思いを知りたい！不安を解消したい！」という思いから、普段関わりの少ない院生同士も、気軽に相談することができるきっかけをつくる活動です。月に1回程度、所属するコース・学年・校種・教科が異なる院生同士で2～4人でグループをつくり、お題をもとに話し合っています。昼休みの時間や、授業がない時間などで、大学内の学食や、院生室、中庭で、明るい雰囲気で行っています。ペアリングをきっかけに、院生の交流が増えています。

今年度4月と5月のペアリングでは、「学校実習」「授業づくり」「行事への関わり方」「研究テーマ」について話し合いを行いました。

(学校経営コース1年 大堂 ひとみ)

4人で昼食を食べながら、ペアリングをしています。教育実践開発コースの学校実習の悩みや困っていることを話したり、お互いの学校の様子を共有したりしています。



学校経営コースの先生とお話ができる機会になりました。小さい悩みにも相談にのってもらえて嬉しかったです。

(教育実践開発コース2年 升谷 聡子)

(教育実践開発コース1年 國繁 菜実子)

普段は関わることの少ない校種や教科の学校経営コースの先生とお話ができます。授業の資料なども見せていただけるため、とても勉強になります。



現職教員は、ストレートマスターの学校実習の話やアイデアを聞くことで、若手人材育成の視点で学校組織を捉えることができます。ペアリングの時間は笑顔があふれ、院生同士の絆が深まっていると感じています。

(学校経営コース2年 黒瀬 崇)

ちょっと一息 ランチタイム

山口大学には、ランチや軽食をとる場所が沢山あります。食堂のポーノやおしゃれな外観のFAVOcafe。食堂・カフェは常時100種類以上のメニューが用意され、食べる楽しさだけでなく、選ぶ楽しさもあります。九州フェアや北海道フェアなど、バラエティあふれる料理がある中、ポーノ NO.1 人気メニューの鳥ポン唐揚げは、ぜひ一度食べてみてください！また食堂でつくられる弁当も充実しており、屋内外で楽しめます。

「Cafe43 (名称は院生の公募により決定)」は、大学の43番教室で行うランチミーティング。定期的開催され、同じ教室で飲食を楽しみます。手づくりのお弁当を持参する院生ももちろんいます。講義や実習、研究の情報交換をしながら、大学院の先生方や院生が同じ時間を共有します。

コロナ禍で一緒に飲食を楽しむ体験は、なかなかできませんでしたが、現在ランチを通したキャンパスライフを味わいながら、明日への活力につながっています。

